

# 防災ラジオ導入、就学援助拡充など実現… 区民の声が区政を動かしました

**共産党区議団**

日本共産党区議団は、区民のみならずから寄せられた切実な願いを議会論議なども通じてまっすぐ区政に届けてきました。その中で、いくつかの切実な願いが実現しましたのでお知らせします。

**【防災】**  
災害情報伝達手段として区が防災ラジオ導入へ  
「二人の犠牲者も出さない」本気の取り組みを

区の防災行政無線の放送が聞こえないと多くの区民から声が寄せられていました。災害情報は、命にかかわる重要なものです。そのため共産党区議団は、以前から防災行政無線の放送改善と合わせて、各家庭に戸別受信機・防災ラジオの導入を求めてきました。開会中の議会で質問。区は、来年度防災行政無線のデジタル化を実施、その後防災ラジオの導入を行うと答弁しました。防災ラジオ

港区では今年6月から防災行政無線の内容が聞ける「防災ラジオ」を導入。聴覚障害者には文字表示ラジオを配布。現在希望者多数で一旦中止し、製造次第、配布を開始。(1,000円自己負担 非課税と生活保護世帯は無料)



**格差と貧困がひろがる中で…  
一人も置き去りにされない社会へ**  
日本共産党荒川区議 横山 幸次

荒川区政にかかわる一人として、安倍政権による格差と貧困が広がる中、一人も置き去りにしない社会をつくらねばという思いを強くしています。振り返ると2008年6月区議会の質問で子どもの貧困問題解決に区として取り組むことを求めてから10年が経過。この間、共産党区議団は「待機児童解消は認可保育園増設で」、「就学援助の拡充」、「子どもの居場所」、「区内事業所の実態調査と対策」

「高齢者福祉の充実」など求めてきました。区は当初「できない」と答えますが、粘り強く繰り返し取り上げ実現したものが少なくありません。道理ある要求は区民の声で必ず実現できるというのが私の議員生活を通じての確信です。「区民の声を区政を動かす」は共産党区議団の変わらぬ姿勢です。地方自治体に住民のくらしを守る防波堤の役割をいかに発揮させるか、問われていると感じる日々です。

**【子育て】**  
就学援助入学準備金などを拡充しました  
さらに義務教育の負担軽減をすすめます

共産党区議団は、小中学校の就学援助入学準備金の7月支給を、実際に必要な入学前に支給することを繰り返し求めてきました。この度、中学校だけでなく小学校入学も前倒しで2月に支給することにしました。また準要保護も要保護と同じ支給額にするよう、質問や予算修正を通じて求めました。今年度から準要保護世帯も小学校40,600円、中学校47,400円

最低賃金は、毎年10月に改定。荒川区はアルバイト賃金を改定に合わせ一般職947円を1000円、用務作業職938円を990円に昨年10月1日から引上げ。しかし荒川区がシルバークラウドに委託している自転車整理(940円)や児童見守り送迎(933円)などそのままです。

年度	区分	要保護	準要保護
2018年度	小学	40,600円	40,600円
	中学	47,400円	47,400円
2017年度	小学	40,600円	23,890円
	中学	47,400円	26,860円

要保護=生活保護世帯  
準要保護=荒川区は生活保護基準の1.2倍までの収入世帯

同時に学校給食無料化についても、国に対して実施を迫るとともに、区独自に実施するよう求めていきます。貧困と格差がひろがる中で子どもの食のセーフティネットとなり、子どもの健康や発達を支える学校給食の果たす役割がますます大きくなっています。

**【高齢者】**  
シルバー配分金引上げ、日常生活用具支給拡大へ  
老後のくらし応援・福祉の一層の充実が必要です

就労としているが、実際は生活費の穴埋め。最賃は確保すべき」と質問。区は、10月1日から最低賃金の引き上げに合わせて、シルバークラウドセンターの配分金も引き上げると約束しました。

また介護予防として、シルバークラウドセンターや介護事業者からも出されています。本会議の答弁で区は「対象拡大を検討」、「来年度は歩行に関する補助用具給付」を行う考えを示しました。

	2018年	2017年
最賃額	986円	958円

	基金残高	起債残高
2017年度	352億5,044万円	186億6,962万円
2016年度	327億2,903万円	198億1,962万円

基金=区の貯金 起債=区の借金  
いずれの数字も千円以下切り捨て

2017年度荒川区一般会計決算に見る区の財政状況(各年度末)

	歳入	歳出	実質収支
2017年度	944億4,411万円	920億9,283万円	23億1,318万円
2016年度	1,002億2,474万円	977億4,057万円	24億8,250万円

実質収支=決算剰余金(その年の黒字分) 歳入-歳出-翌年度繰越分)

【訂正とお詫び】 708号の1面見出し「365億円」は「352億円」の間違いでした。お詫びして訂正いたします。

日本共産党荒川区議会議員 **横山 幸次** 区政報告  
ニュース

2018年10月号外 発行 日本共産党荒川区議会区議団  
区議団控室 TEL 3802-4627 FAX 3806-9246  
E-mail: arajcp@tcn-catv.ne.jp  
町屋相談室 荒川区町屋5-3-5 3895-0504  
E-mail: kouji.office@gmail.com

# 町屋地域…まちづくり

# 地域のバリアフリー、木造密集地域の改善など 住み続けることのできる安全、安心なまちづくり



**町屋5、6、7丁目は介護・福祉施設、都営住宅が密集  
交通安全対策や地域のバリアフリー化は緊急課題です**

荒木田交番前から熊野前の道路（原河岸通り）は、交通量も増えています。加えて吉徳配送センター跡地に、コプデリが配送センターを計画、配送車両による交通量の増加が見込まれます。以前から要望のあったルネ町屋前の信号機設置が切実な課題となっていると思います。

歩道整備と電柱の移設を同時に、この地域は、スクラ

行量が増えていくだけに、バリアフリーや信号機の設置などは緊急課題になっています。

こうした状況は町屋8〜1丁目の5中前の通りも同様です。一刻も早い整備が求められます。

**町屋2、3、4丁目は防災対策と公共施設が課題**

町屋2、3、4丁目は災害危険度が極めて高い地域ですが、ふれあい館などコミュニティ施設がありません。町屋4丁目付近にふれあい館を建設する構想はありますが、進んでいません。災害時を考えたこの地域で優先整備することを求めています。

**公的住宅建設で木造密集地域改善とバリアフリーを**

この地域は、木造密集地域の改善で倒れない燃えないまちづくりが最優先課題。個人任せにせず、公的住宅の建設で建て替え住み替え促進。まず命を守るための簡易耐震やリフォームへの助成。上下水道の耐震化や深井戸の設置など区政の最優先課題で取り組む時です。

**町屋に地域包括支援センターをもつ一カ所**

安心してくらす上で、地域での医療、介護、福祉のネットワークは重要です。高齢者福祉の拠点である地域包括支援センターは、町屋地域で一カ所。木造密集地域は、高齢化率も高く、困難ケースも多いため、この地域に支援センター設置を求める声も出ています。

**まちの話題あれこれ（番外編）**

**町屋8丁目都営住宅用地内に大きな空き地：区民にとって役立つ使い方は出来ないのでしょうか？**

町屋8丁目の都営住宅の建て替えが終わりがかりの時間が経過。しかし旧4号棟周辺一帯は未だに空き地のままです。何に使つか、区として東京都と何か話し合っていないか確認したところ都も含めて「具体的なことはない」との話でした。一定の広さもあり地型もよいので使い道はいろいろあると思います。すでに「公園にして」「高齢者施設は」「やはり住宅…」など周辺住民のみなさんの声が聞こえてきます。やはり区民の声も聞き、区民生活に寄与する利用を検討し、東京都に求めていくべきです。災害危険度の高い区内木造密集地域改善のため従前居住者用



住宅の建設も重要です。区も都も真剣に考えるべきです。  
(横山幸次)

くらし、子育て、介護、雇用…まず声をかけて下さい。解決の第一歩です

日本共産党区議団町屋地域生活相談センター  
(横山幸次区議事務所)  
荒川区町屋5-3-5 TEL・FAX 3 8 9 5 - 0 5 0 4  
メール: kouji.office@gmail.com

**定例法律相談**  
毎月第1月曜・午後6時から8時  
横山幸次区議事務所  
次回は11月5日(月)です

私たちは住民のくらしと命を守るネットワークをもっています...いつでもご相談を  
「定例法律相談」は月一回開催。くらし、子育て、医療、介護、雇用、税金など、国会、都議会の共産党議員団や各分野の専門家とも連携し、ごいっしょに解決のために力をつくします。